

専任教員の教育・研究業績

所属 体育学部	職名 教授	氏名 手塚洋介	大学院における研究 指導担当資格の有無	有	
<b>I 教育活動</b>					
教育実践上の主な業績		年月日 (期間)	概 要		
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
講義におけるプレゼンテーションの工夫	毎年度	学生の理解を促す工夫を試みている。例えば、講義では独自の授業ノート配布し、学生からは「分かりやすい」「読み返して内容を確認できる」等の評価を得ている。他にも、講義の最初と最後に小レポート課題を実施し、学生の理解の進捗を毎時確認するなどしている。 R2年度からは、遠隔授業 (オンデマンド形式) に対応するため、上記の資料に加えて授業内容を解説した動画を全担当授業 (ゼミを除く) で作成し、対面授業と同等の質を担保できるよう心掛けていく。			
2 作成した教科書、教材、参考書					
講義および演習における教材作成	毎年度	担当講義の配布資料を年度毎に見直し、アップデートしている。加えて、R2年度からは、動画教材も作成している。また、国内心理学会に準じたゼミ研究レポート兼卒業論文の執筆マニュアルを独自に作成し、研究指導に用いている。			
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
進路後援会	令和1年7月11日	香川県立香川中央高等学校にて進路講演会を実施した。			
4 その他教育活動上特記すべき事項					
高等学校での模擬授業	令和2年12月21日	兵庫県立三田西陵高校にて模擬授業を実施した。			
オープンキャンパスでの体験授業	平成28年度～令和元年度	スポーツ心理・カウンセリングコースの模擬授業を担当した。			
夢ナビ (講義シート・動画作成)	令和元年6月	「心理学が解明する、「スポーツパフォーマンス」と「感情」との関係」と題して夢ナビHPで公開。			
夢ナビ (講義ライブ)	令和1年7月24日	「スポーツ心理学は面白いー 心身摩訶不思議論 ー」と題した講義を実施した。			
体力若返り講座 in 大阪体育大学	平成26年度～平成27年度	「加齢に伴う心の変化と運動の役割」と題した講義を担当した。			
<b>II 研究活動</b>					
著書 (単著)					
書名	著者	総頁数	発行所	発行地	発行年月
感情制御の精神生理学——快不快の認知的評価——	手塚洋介	124頁	ナカニシヤ出版	京都市, 日本	平成30年2月
著書 (共著・分担執筆)					
題目/書名	著者/編者	初 (始) 頁～終頁	発行所	発行地	発行年月
パフォーマンス不調/ガードナー臨床スポーツ心理学ハンドブック	手塚洋介 / 佐藤寛・金井嘉宏・小堀修 (監訳)	91頁～107頁	西村書店	新潟県, 日本	平成30年5月
健康スポーツ心理学の基礎・論文・レポートの書き方/これから学ぶスポーツ心理学改訂版	手塚洋介 / 荒木雅信	112頁～123頁・177頁～178頁	大修館書店	東京都, 日本	平成30年3月
ネガティブ感情の精神生理学的反応/生理心理学と精神生理学第II巻応用	手塚洋介 / 鈴木直人・片山順一	3頁～13頁	北大路書房	京都市, 日本	平成29年9月
感情と身体/心理学概論第2版	手塚洋介 / 岡市広成・鈴木直人	177頁～179頁	ナカニシヤ出版	京都市, 日本	平成26年4月
感情心理学/日々の生活に役立つ心理学	手塚洋介 / 大木桃代・小林孝雄・田積徹	118頁～131頁	川島書店	東京都, 日本	平成26年3月
原著論文 (審査機関を有する学術誌に掲載の論文に限る。学会抄録等は含めない。)					
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月
心臓血管反応の持続に及ぼす評価懸念の影響——回復性研究における評価的観察を伴うスピーチ課題の有用性——	手塚洋介・鈴木直人	生理心理学と精神生理学	36	15頁～27頁	平成30年
The differences between winners and losers in competition: The relation of cognitive and emotional aspects during a competition to hemodynamic responses.	Yamaguchi, D., Tezuka, Y., & Suzuki, N.	Adaptive Human Behavior and Physiology	5	31頁～47頁	平成30年12月
スポーツ集団内における集合的効力感の評価形成過程: 成員の課題遂行能力に着目した検討	内田遼介・釘原直樹・手塚洋介・國部雅夫・土屋裕睦	実験社会心理学研究	56	33頁～43頁	平成28年9月
競走場面上における心身反応およびその関連要因の検討	長野祐一郎・下仲順子・手塚洋介	文京学院大学総合研究所紀要	14	149頁～162頁	平成26年3月
大学生スポーツ選手におけるバーンアウトとストレスの関わり	木村彩・手塚洋介・杉山佳生	健康科学	35	25頁～31頁	平成25年3月
総説					
題名	著者	誌名	巻	初 (始) 頁～終頁	発行年月

その他（「症例報告」、「実践報告」、「研究ノート」等区分を記入）						
区分	題名	著者	誌名	巻	初（始）頁～終頁	発行年月
	スポーツパフォーマンスと感情——精神生理学からのアプローチ——	単 手塚洋介	臨床心理学	20	279頁～282頁	令和2年5月10日
	21世紀における生物心理社会モデル	単 手塚洋介	臨床心理学	19	739頁～742頁	令和元年11月11日
	ネガティブ感情の機能と構造——緊張からみた感情の科学的理解と実践的活用に向けて——	単 手塚洋介	体育の科学	69	570頁～574頁	令和元年8月4日
	特集こころからだ	単 手塚洋介	心理学ワールド	84	4頁	平成31年4月24日
	健康の精神生理学	共 手塚洋介・長野祐一郎	生理心理学と精神生理学	36	1頁～4頁	平成30年
	運動療法の心理的恩恵——感情に注目した運動の効果——	単 手塚洋介	日本臨床運動療法学会誌	19	1頁～3頁	平成30年8月
	コーディネーター報告「感情から紐解く体育・スポーツ科学のこれから」	単 手塚洋介	体育心理学専門領域会報	29	11頁	平成29年7月31日
	ストレスから感情、そしてその先へ	単 手塚洋介	日本健康心理学会メールマガジン	57		平成29年4月24日
学会発表（「国際学会」、「国内学会（一般演題、シンポジウム、課題研究、講演等）」、「研究会」等区分を記入）						
区分	年月	学会名	演題名	場所	発表者名	
国内(シンポ)	令和元年9月	日本心理学会第83回大会	社会生活におけるNegativityのポジティブサイド	立命館大学, 大阪府	友野隆成・上原俊介・手塚洋介・福野光輝・福島治	
国内(シンポ)	平成30年9月	第26回日本行動科学学会年次大会／日本心理学会第82回大会	研究活動の行動科学—研究の継続要因を探る—	仙台国際センター, 宮城県	友野隆成・小城英子・川上正浩・坂田浩之・布施光代・丸山真名美・小塩真司・手塚洋介	
研究会	平成30年2月	第34回感情と情動の研究会	感情の精神生理学実験における適切なベースライン測定法とは	同志社大学, 京都府	手塚洋介	
国内(講演)	平成29年9月	第36回日本臨床運動療法学会学術集会	運動療法の心理的恩恵—感情に注目した運動の効果—	メルバルク大阪, 大阪府	手塚洋介	
国内(課題研究)	平成29年7月	ISRE2017 (The biennial conference of the International Society for Research on Emotion)	Silent reading technique modulate cardiovascular responses at the baseline measurement.	St. Louis, Missouri, USA	Tezuka, Y., Morishita, T., & Hiromitsu, Y.	
国内(課題研究)	平成29年6月	日本感情心理学第25回大会	感情喚起に及ぼす複数のベースライン測定法の比較	同志社大学, 京都府	手塚洋介・守下つかさ	
国内(課題研究)	平成29年5月	第35回日本生理心理学会大会	皮膚コンダクタンスからみた鳥肌感と生理的覚醒との関連	江戸川大学, 千葉県	手塚洋介	
国内(課題研究)	平成28年11月	日本スポーツ心理学会第43回大会	スポーツ場面におけるくやしき感情の喚起状況の分類	北星学園大学, 北海道	東浦つかさ・手塚洋介	
国内(シンポ)	平成28年8月	日本体育学会第67回大会	感情から紐解く体育・スポーツ科学のこれから	大阪体育大学, 大阪府	北村勝朗・手塚洋介・鈴木直人・関矢寛史・高井秀明	
国際	平成28年7月	The 31st International Congress of Psychology/ The 80th Annual Convention of the Japanese Psychological Association	The duration of emotional responses of “Kandoh (the state of being emotionally moved)” associated with sadness through social sharing.	Yokohama, Japan	Tezuka, Y.	
国内(課題研究)	平成28年5月	第34回日本生理心理学会大会	黙読法を用いた心臓血管反応のベースライン測定	名古屋大学, 愛知県	手塚洋介・東浦つかさ・廣光佑哉	
国内(課題研究)	平成27年11月	日本スポーツ心理学会第42回大会	スポーツ場面におけるくやしき喚起状況の分類と構造	九州共立大学, 福岡県	東浦つかさ・手塚洋介	
国際	平成27年9月	Society for Psychophysiological Research 55th Annual Meeting	The usefulness of silent reading technique at baseline measurement on cardiovascular response.	Seattle, Washington, USA	Tezuka, Y.	
国内(課題研究)	平成27年5月	第33回日本生理心理学会大会	主要5因子性格傾向が競争時の心臓血管反応に与える影響	グランフロント大阪, 大阪府	長野祐一郎・手塚洋介	
国内(他)	平成27年9月	日本心理学会第79回大会	表情を測る—顔面筋電図を用いて—	名古屋大学, 愛知県	藤村友美・手塚洋介	
国際	平成26年9月	The 17th World Congress of Psychophysiology	The influence of answer to the self-report scale on cardiovascular recovery.	Hiroshima, Japan	Tezuka, Y. Murayama, N., Morioka, Y., & Suzuki, N.	
国内(シンポ)	平成26年9月	日本心理学会第78回大会	犯罪捜査のための虚偽検出研究—隠匿情報検査の「弁別的反応」をめぐる—	同志社大学, 京都府	藤原修治・久保賢太・財津亘・渋谷友祐・高澤則美・手塚洋介	
国内(他)	平成26年9月	日本心理学会第78回大会	作って学ぶ精神生理学(2)—指尖容積脈派の測定—	同志社大学, 京都府	手塚洋介	
国内(課題研究)	平成26年8月	日本体育学会第65回大会	くやしきの持続と動機づけとの関連性—大学生アスリートを対象とした縦断的調査	岩手大学, 岩手県	東浦つかさ・手塚洋介	
国際	平成26年8月	The 7th Asian-South Pacific Association of Sport Psychology International Congress	The pilot research on “kuyashisa” (the affective state of being frustrated) at university women athletes.	Tokyo, Japan	Tezuka, Y.	
国内(課題研究)	平成26年5月	第32回日本生理心理学会大会	実際のスピーチ場面における心臓血管反応—挑戦・脅威モデルの観点から—	筑波大学, 茨城県	手塚洋介・佐藤孝矩・門岡晋	
国内(課題研究)	平成25年11月	日本スポーツ心理学会第40回大会	くやしきの持続にみられる感情的動機づけ機能	日本体育大学, 東京都	手塚洋介	
国内(他)	平成25年9月	日本心理学会第77回大会	感情の精神生理学的測定	北海道医療大学, 北海道	手塚洋介・藤村友美	

国内(講演)	平成25年5月	日本芝草学会主催公開シンポジウム	芝生が子どもの心理行動的側面に及ぼす影響	国立競技場, 東京都	手塚洋介
国内(課題研究)	平成25年5月	日本感情心理学会第21回大会	くやしさを持続に関する探索的研究—大学生スポーツ選手を対象に—	東北大学, 宮城県	手塚洋介
科学研究費等の取得状況					
科学研究費/その他の助成金/外部資金					
区分	種類	題目	代表・分担の別	期間	助成額(期間内の総額)
科学研究費	研究成果公開促進費	感情制御の精神生理学: 快不快の認知的評価	代表	平成29年度	700,000
科学研究費	若手研究(B)	感情研究におけるベースライン測定の標準プロトコルの開発	代表	平成25-27年度	1,560,000
外部資金	平成25年度私立大学等研究設備等整備費補助金(私立大学等研究設備等整備等)	生体信号解析システム	代表	平成25年度	11,358,000
特許					
特許名称	発明者/出願人	出願日/出願番号	公開番号	取得した場合⇒	公告・特許番号
<b>Ⅲ 加入学会および社会における活動</b>					
期 間	内 容				
加入学会					
平成31年4月～現在	日本感情心理学会常任理事, エモーション・スタディーズ編集委員長, 学術プログラム委員, 倫理委員				
平成28年5月～現在	日本生理心理学会評議員				
平成28年4月～現在	日本行動科学学会編集委員				
平成27年9月～令和元年6月	公益社団法人日本心理学会心理学ワールド編集委員				
平成26年4月～令和2年8月	日本スポーツ心理学会資格認定委員会会計監査				
平成25年6月～平成28年6月	日本感情心理学会編集委員会副委員長				
平成25年2月～現在	公益社団法人日本心理学会代議員				
社会的活動					
平成28年1月	愛媛銀行寄附講座・聖カタリナ大学公開講座「風早の塾」幸福づくりのヘルスプロモーション講師				
平成27年～現在	大阪府高齢者大学校講師				
平成25年～平成30年	(財)日本体育協会公認上級指導員養成講習会講師				
平成25年12月	大阪樟蔭女子大学公開講座「心理学の現場—心理学と社会のつながり—」講師				
<b>Ⅳ 管理活動</b>					
期 間	内 容				
委員会活動					
平成31年4月～令和2年3月	全学: 自己点検・評価委員会, 全学教務委員会, 障がい学生支援委員会, 学習支援室運営委員会, キャリア支援委員会, 学生相談室運営審議会 学部: 自己点検・評価委員会, 人事審査会議, 予算委員会, 入試委員会, 教務委員会(委員長) 大学院: 自己点検・評価委員会(委員長)				
平成29年4月～平成30年3月	全学: 学生募集戦略会議(将来構想委員会) 大学院: 広報委員会, 入試委員会				
平成28年2月～平成30年3月	大学院: 大学院開設25周年・博士後期課程開設15周年記念事業委員会				
平成27年4月～平成29年3月	全学: 施設検討委員会, 広報委員会 体育学部: FD委員会 大学院: 広報委員会, 入試委員会				
平成25年4月～平成27年3月	体育学部: 自己点検・評価委員会 大学院: 学生委員会, 研究教育委員会				
特別プロジェクト活動					
平成25年度	特色あるプロジェクト「『感情スポーツ心理学』構築に向けた基盤整備」				
<b>Ⅴ クラブ活動の指導業績</b>					
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人	
4. 現場指導の頻度	選択 ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数:	回	延べ日数:	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	選択 ① 積極的に取組んでいる ② ある程度取組んでいる ③ あまり取組んでいない ④ 全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	選択 ① 積極的に取組んでいる ② ある程度取組んでいる ③ あまり取組んでいない ④ 全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	選択 ① 積極的に取組んでいる ② ある程度取組んでいる ③ あまり取組んでいない ④ 全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所		

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開催期間	大会名	成績	場所

VI 賞罰 (職務に関する賞罰)

年月	受賞等機関名	内容	備考